

私たちは
いつも

お日さまのような

明るい顔と

花のような

美しい心と

蟻のような

まじめな気持ちを

いつまでも

もちたい

上の詩は私が教職時代、機にふれ、子供達や父兄の方々に、この詩を基に話しをさせてもらったもので、言わば私の教育理念です。育ちゆく子供達に期待した三つの夢なのです。

今号はこの詩に関する想いでを記してみることとします。

お日さまのような明るさとは、お日さまは場所を選びません常に平等に辺りを照らすように、みんなして仲良くして欲しいという私の願いです。

又、花のような美しい心とは、桜だけが花ではなく、バラだけが花ではないように、それぞれが持つ自分の花を大切に育て、咲かせて欲しいという自己発見、個性伸長を期待しての夢でしたし、蟻のようなまじめな気持とは、仕事は課せられたものではなく、能動的であり、喜びでありたい、報酬は目的でなく、結果でありたい。こんな意味合いのことを考えて作った詩です。

T子が大学を卒え、就職も決まった春にあった同窓会の日のことでした。T子は父親の転勤の関係もあって十年振りの出席でした。会は江ノ島でおそくまで続いていました。同方面のこともあって、T子と一緒に帰途についたのでありますが、横浜辺にさしかかった頃、突然「先生」と一枚の紙片を私に差し出すのです。今までの話しの推移からして、てっきり彼氏の写真と違って、覗き込みました。そしたら、私が卒業時に贈ったこの詩だったのです。

撒いた種子が、すくなくともこのT子の心の中で、育っていてくれたとの思いで、涙が出る程嬉しかったのを思い出します。教師冥利とでもいうものでしょうか。暫しの間、唯々無言の時間が過ぎました。

今、彼女は二児の母親です。先日、私が結婚披露宴の際、再度贈った色紙をバックに一家の写真が送られてきました。懐かしく想い出すコマです。